

## 式辞（3学期終業式）

今年は暖かい日が多く、桜の開花のニュースも聞こえてくるようになり、春を感じるようになりました。地震が起こっても、人間以外の生物はショックを引きずらずに毎年の営みを続けていくんだなと、感心しています。

思い起こせば、令和5年度は大きな地震が二度も起こり、大変な年でした。1月1日以来、困難な状況にあっても一つ一つ乗り越え、今日まで頑張ってきた皆さんの姿を見ながら、私自身、頑張らなければいけないと自分に言い聞かせて3ヶ月を過ごしてきました。皆さんから多くのことを学びました。

また、町の風景はそんなに変わりませんが、電気も来るようになり、道も良くなってきました。水ももうすぐ来るのではないかと期待しています。ゆっくりとではありますが、復興してきていますので、もうしばらく頑張ってください。

一方で、私自身の思考や振る舞いを自分で見ていて、「それって、ちょっと変じゃない？」という懸念が一つあります。それは被災者として、もらい慣れしてしまっていることです。つまり、支援の方々に、してもらうのが当たり前・只でもらうのが当たり前になっているということです。皆さんは思い当たることはありませんか。こうなっているのは私だけでしょうか。支援する人はいわゆる助ける人です。助ける人がいれば助けられる人がいるわけですが、主体はどちらかというと、助けられる人です。主体である助けられる人が自分で自立しようとしなのに、助ける人がいつまでも支援してくれることはありません。今は支援を受けざるを得ない状況ではありますが、感謝の念をもってその支援を頂きながら自立に向けて取り

組んで下さい。支援の方々は仕事を休み、支援物資を調達し、自腹で珠洲まで来てお世話下さっています。皆さんの場合、身近には炊き出しの方々へ感謝しながら昼食を取って下さい。その感謝を言葉や行動にして支援者に伝えて下さい。そして、一つ一つ以前の生活に、つまり自立した生活になるよう我々自身が更に取り組んでいかなければなりません。できれば、何年か後は、皆さんが支援者となって困っている人たちを助けてあげて下さい。

さて、本日で5年度3学期が終了します。先日の成績会議では皆さんの1年間の努力が評価され、1, 2年生の全員が進級することに決まりました。

新3年生は最上級生として、生徒会活動や部活動、各種行事で1, 2年生に手本を示さなくてはなりませんし、自分の進路も切り開かなくてはなりません。3年生は八面六臂の働きをすることになります。八面六臂とは八つの顔と六つのひじと書きます。阿修羅の仏像を思い出して下さい。その意味は、多方面にめざましい手腕を発揮し一人で数人分の働きをすることです。3年生はそれくらい盛り沢山なのです。私が生徒の頃の飯高生は不甲斐なかったのですが、それ以前や平成以降の飯高生は素晴らしい方々が多く、学業や部活動に華々しい成果を出したり、今回の震災でも制服の調達などで力強い支援をして下さったりしています。皆さんはそんな偉大な先輩の後ろ姿を見ながら高校生活を送っていますので、自信をもって頑張ってもらいたいと思います。そして、飯高には石川県で選りすぐりの先生方がおいでます。新3年生に限らず生徒の皆さんは先生方を大いに利用・活用して進路実現してほしいと願っています。加えて、新3年生には私の名言である「迷っても、悩んでも、1点にもならない」という言葉を贈ります。よく調べたり、考えたりすることは重

要ですが、それをいつまでも迷っていても点数にはつながりません。よく調べ、考えたら、決断し、動き始めることが重要です。頑張ってください。

次に、新2年生です。新2年生は中堅としてこの学校を盛り立てていく役割を担います。生徒会や部活動では先輩を補助し、新入生に対しては身近な先輩として指導していくこととなります。また、進路に関しても、2年生のうちから受験勉強をスタートした人と3年になってからスタートした人では、納得する進路決定をした人の割合に有意な差があります。中だるみしている暇なんかありません。期待しています。

話は変わりますが、嬉しい知らせがあります。今年1月17日、全日本交通安全会から、飯田高校の長年の交通安全への取組が評価され、表彰されました。本来なら秋篠宮様や岸田総理大臣のご臨席の下、私が賞状を頂くところだったのですが、地震により欠席したため、先日珠洲警察署長さんが持っておいでました。大変栄誉なことです。皆さんもこれにおごることなく、交通安全に努めて下さい。3学期始業式でお話しした正常性バイアスを覚えていますか。事故は起こそうと思って起こす人はいません。例えば二人乗り自転車で事故った人も事故の直前まで、大丈夫と思っていたはずですが、事故ってから二人乗りは危険だったんだなと気づくのです。これでは遅いので、交通事故に関しては事故る前に用心して下さい。

最後に、訃報です。飯高第10回卒業の谷先生が2月28日にお亡くなりになりました。谷先生は飯高を御卒業後、名古屋工業大学へ進学され、エネルギーの研究を推進され、通産省で御活躍なさいました。通産省の太陽エネルギー研究室長を務められた後、東京理科大学で教授、そして名誉教授とられました。この経歴からも分

かのように、先生はエネルギー関連の第一人者でした。谷先生は母校愛にあふれ、事ある毎に皆さんの活躍を喜んでおいでましたし、皆さんの学習環境を整えるために多くの物品や事業を支援してこられました。この業績を鑑み、3年前の卒業式から、「清・慎・勤」の校訓の精神を体得し、課外活動で顕著な成果を収めた生徒に谷辰夫奨励賞を授与しています。今後は皆さんの活躍を天国で見守って下さると思います。このように飯田高校の発展に寄与されてきた方を亡くしたことは、御寿命とは言え、誠に残念でなりません。谷先生に感謝の意を込め、御冥福を祈るため、私の降壇後に黙禱を捧げたいと思います。よろしくお願ひします。

以上、3学期終業式式辞を終わります。

令和6年3月22日

石川県立飯田高等学校長 角 秀明